

大橋川通信



2006.6
第12号

刊行/
大橋川コミュニティセンター

第4回 景観専門委員会 を開催



大橋川沿いの柳並木

様々な角度から 大橋川沿川の景観を考える

景観専門委員会を開催

景観に関する事項について専門的・技術的な助言を頂く、第4回景観専門委員会を5月17日(水)に島根県市町村振興センターで開催しました。

委員会に先立って、午前中に委員による大橋川の視察を行いました。

大橋川の景観形成に関する「基本方針」を検討

大橋川周辺の景観はどうかあるべきかという「基本的な考え方」を検討する為に、次の4つの項目を軸にまとめた資料を基に、大橋川の景観を考える上でのポイントを整理しました。

- ◆ 景観に関する法律・条例等
- ◆ 沿川景観の歴史的背景
- ◆ 現況景観の特徴
- ◆ 第2回まちづくり検討委員会及び第3回合同委員会における審議内容

このうち、現況景観の特徴については、前回景観専門委員会での審議により検討項目となった、季節や時間によって特徴的な変化をみせる景観要素についても、補足資料を加え整理しました。

その後、現地視察を踏まえた意見交換を行いました。

大橋川周辺まちづくり検討委員会へ報告

今回出したキーセンテンス(重要な文章)を基に、次回景観専門委員会では、「めざすべき景観理念」や「景観形成における基本的な考え方」を検討し、7月に予定されている第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会に報告する予定です。

資料の閲覧場所

- 大橋川コミュニティセンター
 - 松江市大橋川治水事業推進課
 - 島根県斐伊川神戸川対策課
 - 国土交通省出雲河川事務所
- <http://www.mable.ne.jp/~comisen>



第4回「景観専門委員会」の様子

歴史的背景からみた検討・・・＜歴史関連資料の記載事項＞ 文学作品と過去の景観

こいづみやくも 小泉八雲 (ラファディオ・ハーン)
日本警見記「第七章 神々の国の首都」

『…やがて、わたくしの家の庭先の、つい目と鼻のさきの川ばたから、かしわ手を打つ音が聞こえてくる。…かしわ手は、遠くの方…美しい小舟の群からもひびいてくる。…こうして土地の人たちは、だれもかれもみな、朝日にむかって、つまり「お日さん」、すなわち「天照大神」を拜むのである。』

『橋の上には、下駄の音が引きも切らず、しだいに音高くひびきはじめる。大橋の上をわたるこの下駄の音は、忘れられない音だ。…ちょこちょこと足早で、ほがらかで、音楽的で、なにか大がかりな舞踏に似ているところがある。』

『…右手にはビョウ／＼とひろがっている宍道湖にそそぎ入る、大橋川のひろい鏡のような川口が、遠くの方にフルえるような物の影をうつしながら、冷たく光っている。』

しがなおや 志賀直哉
濠端の住い
(松江市内(内中原町)に3ヶ月住んだ際の感想として)『人と人との交渉で疲れ切った都会の生活から来ると、大変心が安まった。』と記している。

しまざぎとうそん 島崎藤村
山陰土産
『大橋は水に映って、岸から垂れさがる長い柳の影もすゞしい。』

たばたしゅういちろう 田畑修一郎
出雲・石見
『橋で代表的なものは、何といても松江大橋とそれに隣る新大橋だ。以前私の知っていた大橋は木槍であったが、今度行って見ると全部花崗岩の堂々たる橋になっていた。…まだ時代がつかないせいか、石のきれいさをいかにも凝った感じがかえって松江のおっとりした空気と不調和な気もされた』

さとみ とん 里見 弴
ある年の初夏
『車があの名高い大橋にかかって、左に渺々たる宍道湖を、右に船舶や橋の河岸の家々が映った大川を眺めた時には“ああやっぱり出掛けてきてよかった”と思った。』

よさのあきこ 与謝野晶子
『あわれなりまた時あらし町をゆき、松江の橋を今渡らさば』

あくとがわりゅうの すけ 芥川龍之介
松江印象記
『松江へ来て、まず自分の心をひいたものは、この市まちを縦横に貫いている川の水とその川の上に架けられた多くの木造の橋とであった。』

出雲国風土記
朝酌川合流点付近は筈と呼ばれる漁具が仕掛けられ、漁が行われた。また、朝酌堤戸から大井浜にかけて白魚漁が行われたと記されている。

朝酌川合流点付近は、朝酌の渡しという渡船場があったとされ、「矢田の渡し」はほぼ同じ位置にある現代の渡しであり、周辺一体は朝酌郷の風景をよく残していると伝えられている。

安来節
松江大橋ヤナギの下でわたしあなたをぬれてまつ
ぬしを松江の大川端に思ひとどいてめうと橋

景観形成に関する「基本方針」の検討

第4回景観専門委員会では、大橋川沿川の景観形成に関する「基本方針」を4つの観点から検討しました。

景観に関する法律・条例等
景観形成の基本的な考え方に係わるキーセンテンスの抽出
景観に関連する法律・条例および関連計画等から、大橋川沿川の景観形成に関して参考とすべき事項を抽出・整理。

沿川景観の歴史的背景
景観形成の基本的な考え方に係わるキーセンテンスの抽出 (上の図面)
沿川の歴史資料や文学作品等から、景観形成上のよりどころとしての原風景や歴史的資源の保全・活用の観点から検討事項を抽出・整理。

現況景観の特徴
ポイントとなる現況景観の要素 (大橋川通信第9号参照)
第2回景観専門委員会にて審議された景観要素を再度分析し、景観形成に関する事項を抽出・整理。
← 前回の委員会が出された意見に対応した補足資料

第2回まちづくり検討委員会及び第3回合同委員会における審議内容
大橋川沿川の景観に関する意見・想い (大橋川通信第10号・11号参照)
第2回まちづくり検討委員会、第3回合同委員会で審議された「まちづくりに対する想い・意見」から、景観形成に関連する事項を抽出・整理。

時間的に特徴的な変化をみせる要素

季節の景

- ◆ 春: 春の源助公園: 普段は落ち着いた佇まいをみせる公園が、春のサクラが満開になると華やかな印象を与える
- ◆ 夏: 大橋川のポート: 大学や高校のボート部の練習や大会の場として利用する他、市民レガッタのイベントが開催される夏の大橋川の景観
- ◆ 冬: 雪をいただく大山: 大橋等を視点場として、はるか遠くに確認できる名峰 大山

一日の景

- ◆ 朝: 大橋川の夜明け: 明け方に宍道湖大橋などから下流方向を望むと、朝日に染まる川面と松江市街地が幻想的に映し出される
- ◆ 朝: 大橋の朝霧: 朝霧に霞む大橋は幻想的で神秘的な印象を与える
- ◆ 朝: 朝霧の中のシジミ漁: 朝もやの中で静かに営まれる伝統的な勤簾(じょれん)を使ったシジミ漁の姿は脈々と受け継がれてきた伝統、文化を感じる
- ◆ 夕: 夕焼けの大橋: 宍道湖に沈む夕日を背景にした大橋は幻想的な印象を与える
- ◆ 夕: 宍道湖の夕照: 大橋や宍道湖大橋から望む宍道湖に沈む夕日はしばしば絶景と称され、観光、地域のシンボルとなっている松江を代表する景観
- ◆ 夜: 大橋川の夜景: 市街地を貫流する大橋川の両岸では、夜になると、橋の照明、業務施設、飲食店の明かりが水面に映る

委員会と現地視察の様子

【委員会でのご意見】
第4回景観専門委員会では、次のような意見が出されました。

- 上流・中流・下流、それぞれのエリアで水との距離感や水とのふれあいの度合いをどう考えるのか
- 水辺に近い松江の特徴をどう活かすのか等、ゾーン毎に特色を持たすべきだ
- 目に見える固定的な景観だけでなく、人の声、小鳥のさえずりといった「静寂・静かさ」も大切なキーワードの一つではないか
- 松江の町そのものが昔から静寂や静かさという言葉に代表される場所である。今日の現地視察はあいにくの雨だったが、この「しっとり感」が松江の風情につながるのではないかと

【委員による現地視察】

大橋
中州
矢田の渡し

藤岡 大拙 景観専門委員
藤田 光一 景観専門委員
布野 修司 景観専門委員長代理
松本 修宗 景観専門委員
吉田 薫 景観専門委員

「中海・日野川情報ひろば」を開設しました

平成18年5月11日、国土交通省 道路情報プラザ内に
「中海・日野川情報ひろば」を開設しました。



中海・日野川情報ひろば

住所：鳥取県米子市久米町323
(国土交通省道路情報プラザ内)
時間：10時～16時(月～金)
※土日、祝日、年末年始は閉館
5/13(土)～6/11(日)は土日も開館

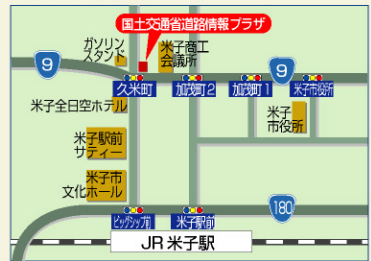
中海の水環境や、斐伊川流域及び日野川流域の治水対策や環境整備の状況について、パネルやパンフレット、境水道や大橋川の水の流れや速さを表示するモニター等を設置した「中海・日野川情報ひろば」を、米子商工会議所の西隣、国土交通省道路情報プラザ1階に開設しました。

今回展示した内容は、中海の水環境の状況や、水環境改善への取り組みの紹介、斐伊川・神戸川流域の治水対策の概要や、放水路とダムの工事進捗状況等を中心としたものになっています。

今後は、みなさんのご要望を聞きながら、情報を充実させていきます。



▲展示場所の様子



大橋川の今昔

大橋川の見慣れた風景も時代と共に少しずつ姿を変えてきています。「大橋川の今昔」では、大橋川沿川の移り変わりをお宝写真と共に紹介しています。

上段の写真は、くにびき大橋の建設が始まった昭和51年頃の写真で、橋北から橋南を臨んだ様子です。

写真右上に見えるのは造船所の建物です。このように大橋川沿いにはいくつかの造船所があり、新しい船の進水式等も行われていました。

現在、この辺りは、ホテルや飲食店、駐車場といった松江駅前の商業地となっていますが、当時は造船業が活発に行われていました。

くにびき大橋架橋により、橋の下を大きな船が通れなくなるため、造船所は中海などの下流へ移転したり廃業したりと、舟運で栄えた松江の川沿いの様子も変わっていききました。

くにびき大橋建設により 舟運で栄えた造船所が移転

昭和51年頃 くにびき大橋建設当時の様子



現在の様子



大橋川コミュニティセンター

【開館日】年中無休(年末年始除く) 【開館時間】9:30～16:00 【駐車場】5台程度
〒690-0841 松江市向島町134-1
TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623
E-mail:comisen@mable.ne.jp
ホームページ: <http://www.mable.ne.jp/~comisen>

*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

